読者のページ

Reader's VIEW

2022 Vol.1 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部に寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

＊『VIEW next』及び『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは、
『VIEW next ONLINE』(https://view-next.benesse.jp/) でご覧いただけます。

●特集を読み、「個別最適な学び」の考え方や具体的な実践について理解を深めることができました。教室には、発達に課題のある子どもや不登校傾向にある子どもを含め、多様な子どもがいます。ＩＣＴの活用など、様々な視点ですべての子どものために個別最適な学びをつくることが、これからの学校の大きな使命だと感じました。（千葉県）

●「指導の個別化」は表現こそ異なりますが、20 年以上前から重要だと言われています。ただし、１人の教員が子どもの実態や能力を正確に把握して指導することは、実際には大変です。ＩＣＴを活用したり、子どもの実態をよく把握している生徒指導主事や養護教諭などと連携したりすることが重要になると考えました。（岡山県）

●特集で紹介された福岡県朝倉郡東峰村立小中一貫校東峰学園では、子どもがすべての授業の板書を端末で撮影し、特に、「このように考えたらできた」という振り返りを大切にし、見方・考え方を育むというところに共感しました。端末の有効な活用法の１つだと思いました。（山口県）

●特集の宮城県気仙沼市の実践は、グループ単位になりやすい探究学習を生徒個別の活動にし、探究学習コーディネーターを活用しながら、生徒が自ら課題を設定できるようファシリテートしている点が素晴らしいです。同市立階上中学校が行う防災とつなげた課題設定も、地域性が十分に発揮されている取り組みで、参考になりました。（東京都）

●特集では、東京都品川区教育委員会の事例が印象に残りました。行政が子ども一人ひとりを大切にする視点で様々な専門家を配置し、学校を手厚く支援していました。素晴らしい取り組みで、全国に広がってほしいものです。（山口県）

●特集は、今日的なテーマであり、大いに刺激を受けました。上智大学・奈須正裕教授が提案する授業には、教員個々の力量が必要で、安易な理解や浅い実践では、混乱するだけです。「主体的な学び」も、教員によって捉え方に違いがあると、授業改善が進みません。皆で考え、認識を共有して、授業を変えていかなければならないと思いました。（新潟県）

●特別企画を読み、不登校の子どもに対して「学校復帰のみではなく社会的自立を支援する」という姿勢に共感しました。現状の是正だけでなく、将来に向けた取り組みを促すことで、真に子どもに寄り添う指導ができると思います。岐阜県岐阜市立草潤中学校の事例で紹介された「学校らしくない学校」や「目指す生徒像は１つではない」といった視点も、とても有効だと感じました。（青森県）

●連載「教育長が語る Leader's View」では、新潟県柏崎市の近藤喜祐教育長が、学力調査の数値目標を保護者にも発信していましたが、それによって責任が生じ、学校の努力を促すことができているのだと思いました。（東京都）

●連載「データで教育を読む」を読み、改めて「子どもに寄り添う」とは何かを考えさせられました。言うのは簡単ですが、具体的にどのようなことが、「子どもに寄り添う」ことなのかを、教員は学ぶ必要があると思います。（愛知県）

●新連載「実践事例で見る 学びの next」で紹介された千葉県印西市立原山小学校が「総合的な学習の時間」を活用し、実社会の課題を軸に情報活用能力を育む取り組みは、小学校だけでなく、中学校にも参考になる事例でした。（新潟県）

●新連載「教委がつなぐ地域と学校」で紹介された山口県山口市教育委員会が行う、児童生徒が参画する学校運営協議会は、究極のコミュニティ・スクールの形だと思います。本校でも、学校運営協議会のあり方を工夫していますが、子どもを見て、その子どもと議論を交わすことが、子どもの成長を促す一番の方法だと思いました。（神奈川県）

編集後記

今号の特集で、各校の英語の授業を拝見して印象的だったのは、子どもたちの英語を楽しむ姿です。私自身は、読み書き中心の英語学習でしたが、今の小学生はリアルな体験と結びつく英語を学んでいて、英語が自然と身についていく授業を目のあたりにしました。外国人比率が高まるであろう日本の未来を、そうした体験重視の授業を重ねた子どもたちが担い、母国語並みに英語を話せる日本人が増えることを期待したいです。(広瀬)

VIEWnext 教育委員会版 2022 Vol.2

2022年 9 月 15 日発行／通巻 29 号

発 行 人　春名啓紀
編 集 人　田村隆憲
発 行 所　(株) ベネッセコーポレーション
学校カンパニー VIEW next 編集部
印刷製本　研精堂印刷 (株)
編集協力　(有) ペンダコ
執筆協力　佐藤 智、二宮良太
撮影協力　木村琢磨、谷口 哲、萩 康博、ヤマグチイッキ

お問い合わせ先
フリーダイヤル
0120-350455
〒700-8686
岡山市北区南方3-7-17

©Benesse Corporation 2022

※ Vol.3 の発刊は、12 月を予定しています。